

別表3 入院(入所)から退院(退所)までの多職種協働による薬剤調整*

(*)実際の活動を踏まえた望ましい形の一つとして示したものであり、画一的に推奨するものではない。

職種	入院(所)前	入院(所)時	薬剤調整の実施	退院(所)前	退院(所)後 外来・在宅
入院(所)担当の医師・ 歯科医師	(入院(入所)判定の実施) ・高齢者本人・家族の多面的な要素の情報把握 ・前医師・歯科医師やかかりつけ医師・歯科医師・薬剤師との情報共有 ・全ての薬剤、特にPIMsの確認	(診療計画の決定) ・診察やCGA(ADL、栄養、嚥下機能、認知症機能等の評価)等の実施、各専門職からの情報収集で、本人・家族の多面的な要素の情報把握 ・前医師・歯科医師や、かかりつけ医師・歯科医師・薬剤師から、薬物療法に関連した情報を聴取 ・ポリファーマシーに関連した問題点の把握 ・腎機能等の生理機能の把握	(薬剤調整・処方の実施と多職種のコーディネート) ・家族への処方薬剤の情報および薬剤調整実施についての説明 ・処方の適正化と処方箋の発行 ・薬剤の剤形・用法・用量等を変更した薬剤に期待される効果の確認と多職種との共有 ・非薬物的対応の実施 ・経過観察における、治療による症状の変化や薬物有害事象のモニタリング方法の確認と多職種への伝達	(診療情報提供書の作成と多職種のコーディネート) ・薬剤調整の結果の評価とサマリーの作成 ・非薬物的対応の結果の評価とサマリーの作成 ・かかりつけ医や地域内多職種への診療情報提供書の作成	かかいつけの医師、歯科医師 ・診療情報を活かした日常診療 ・左記入院(所)担当の医師、歯科医師に準じた日常的な薬物療法と非薬物的対応の見直し
専門の医師・歯科医師	・入院(所)主治の医師・歯科医師からの問い合わせに対するアドバイス	・変更した薬剤の適切性の確認とモニタリング方法等の経過観察法の提案	・変更した薬剤の投与量や併用薬剤等の適切性の確認 ・薬物相互作用及び薬物有害事象の回避 ・経過観察における、治療による症状の変化や薬物有害事象のモニタリング方法の提案 ・剤形や服用方法の工夫による服薬支援	・入院(所)主治の医師・歯科医師からの問い合わせに対するアドバイス	
入院(所)担当の薬剤師	・全ての薬剤(一般用医薬品を含む)、特にPIMsや相互作用がある薬剤に加えて、サブシメントの把握 ・服薬状況の確認 ・かかりつけ薬剤師との情報共有	・服薬アドヒアランスや暮らしの評価で、服用管理能力を把握 ・薬物治療中の必要な検査値などを確認し、処方の優先順位を医師と相談し、最適な処方を主治医に提案 ・症状の確認と薬物有害事象の把握と担当医との情報共有	・変更した薬剤の投与量や併用薬剤等の適切性の確認 ・薬物相互作用及び薬物有害事象の回避 ・経過観察における、治療による症状の変化や薬物有害事象のモニタリング方法の提案 ・剤形や服用方法の工夫による服薬支援	・薬剤調整の結果の確認 ・服用管理能力に合わせた指導(家族指導) ・薬剤サマリー記載 ・かかりつけ薬剤師への情報提供	かかいつけ薬剤師 ・薬剤情報を活かした日常の関わり ・左記入院(所)担当の薬剤師に準じた日常的な薬剤処方と非薬物的対応の提案
看護師	・嚥下機能の聴取(食形態・摂取量の確認) ・ADLの情報収集 ・服薬アドヒアランスの確認(残薬や服用方法の確認) ・家族への処方薬剤の情報および薬剤調整実施についての説明と理解状況の確認 ・症状の確認と薬物有害事象の把握と担当医との情報共有	・薬剤調整内容の確認と調整後の変化の把握 ・夜間睡眠状況の確認 ・日中、夜間活動度の把握 ・ADL・食事量の変化の把握 ・服薬状況の確認、服薬支援 ・院内多職種とのカンファランスと情報提供・共有・ケアの調整	・薬剤調整内容の確認と調整後の変化の把握 ・夜間睡眠状況の確認 ・日中、夜間活動度の把握 ・ADL・食事量の変化の把握 ・服薬状況の確認、服薬支援 ・院内多職種とのカンファランスと情報提供・共有・ケアの調整	・看護サマリー記載 ・服用管理能力の把握 ・薬剤自己管理の開始と評価 ・家族への服薬指導の必要性について判断 ・地域スタッフへの情報提供	
歯科衛生士	薬物有害事象も含めた口腔環境や嚥下機能の確認	・薬剤調整にともなう口腔環境・嚥下機能の変化の把握 ・院内多職種とのカンファランスと情報提供・共有	・薬剤調整にともなう口腔環境・嚥下機能の変化の把握 ・院内多職種とのカンファランスと情報提供・共有	口腔環境、ケアの情報提供	
理学療法士・作業療法士	・服薬状況の聴取(剤形・服薬量・服薬動作の確認) ・ADLの情報収集	・薬剤調整にともなうリハビリテーション実施時における変化の確認 ・薬剤の影響を踏まえた日常生活上の指導 ・日中活動度の把握 ・非薬物的対応の実施	・薬剤調整にともなうリハビリテーション実施時における変化の確認 ・薬剤の影響を踏まえた日常生活上の指導 ・日中活動度の把握 ・非薬物的対応の実施	・リハビリテーションサマリーの記載 ・生活指導(運動指導、動作指導、ADL指導など)記載 ・服用管理能力に合わせた指導(家族指導) ・環境調整、運動指導	
言語聴覚士	薬物有害事象も含めた嚥下機能の評価	薬剤調整にともなう嚥下機能の変化の把握	薬剤調整にともなう嚥下機能の変化の把握	嚥下状態の情報提供	
管理栄養士	入院(所)前の食形態、摂取量の把握	薬剤調整にともなう栄養状態・摂食量変化の評価	薬剤調整にともなう栄養状態・摂食量変化の評価	食事内容の情報提供	

職種	入院(所)前	入院(所)時	薬剤調整の実施	退院(所)前	退院(所)後 外来・在宅
社会福祉士等 (医療機関の医療ソーシャルワーカーや施設の支援相談員)	<ul style="list-style-type: none"> 以下の情報の把握及び得られた情報を医師、薬剤師等と共有 <ul style="list-style-type: none"> 在宅や施設・病院等の転院(所)元における <ul style="list-style-type: none"> ○服薬内容 ○残薬等の服薬状況 ○服薬支援状況 服薬支援に関わる家族・同居人に確認 生活課題のアセスメント 社会資源や制度の活用状況の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤についての家族の希望や、医師からの説明の理解状況の確認 生活上の課題を多職種に情報提供 	医師・歯科医師・薬剤師・その他の院内多職種とのカンファランス開催と情報共有と制度上無理なく処方できる薬剤に対する情報提供	<ul style="list-style-type: none"> カンファランスでの院内・地域内多職種への情報提供 地域内多職種のサービス導入の検討 社会資源・利用サービスに合わせた服薬支援を調整 退院(所)後の生活場面を想定したサービスの対応範囲の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 生活状況の確認 かかりつけの医師、歯科医師、薬剤師との情報共有
介護福祉士	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の活動度の情報収集 趣味、楽しみ、興味の把握 		<ul style="list-style-type: none"> 夜間睡眠状況の確認 日中、夜間活動度の把握 ADL・食事量の変化の把握 		
介護支援専門員(施設)	入所判定会議の実施	施設サービス計画立案	薬剤調整方針についてケアプランに記載	<ul style="list-style-type: none"> ケアプランの一部としての薬剤調整の結果が服用支援等に反映されているか評価 退院先の医療・生活状況についての情報収集 	かかりつけの医師、歯科医師、薬剤師との情報共有
介護支援専門員(在宅)	医療・生活情報を提供(予定入院(所))	医療・生活情報を提供(緊急入院(所))	各職種からの服薬状況や生活状況の情報集約と主治の医師、歯科医師、薬剤師への伝達	<ul style="list-style-type: none"> 退院先の医療・生活状況についての情報収集 生活状況をとらえたケアプランの立案 	<ul style="list-style-type: none"> 生活状況をとらえたケアプランの管理 かかりつけの医師、歯科医師、薬剤師との情報共有

医師・歯科医師・薬剤師が参照すべき総論編の図表等	<p>【図4-1】 処方見直しのプロセス</p> <p>【別表1】 高齢者で汎用される薬剤の基本的な留意点</p> <p>【別表2】 その他の特に慎重な投与を要する薬物のリスト</p>	<p>【総論編 3. 1 ○処方の優先順位と減量・中止】 各薬剤の適応を再考するポイント</p> <p>【図4-1】 処方見直しのプロセス</p> <p>【表1】 薬剤起因性老年症候群と主な原因薬剤</p> <p>【表2】 服薬アドヒアランス低下の要因</p> <p>【別表3】 代表的腎排泄型薬剤</p> <p>【別紙】 薬物動態、腎機能低下時及び薬物相互作用について</p>	<p>【図4-1】 処方見直しのプロセス</p> <p>【表3】 処方の工夫と服薬支援の主な例</p>	<p>【図5】 療養環境移行時における処方変化のイメージ</p>	<p>【図5】 療養環境移行時における処方変化のイメージ</p>
--------------------------	--	---	---	--------------------------------------	--------------------------------------